

ジュニア賞

感情伝達のしやすさを目指して

青山 ひかり (中学3年生：北海道)

「きっかけ・動機」

私はコロナ禍が進んでいる今、困っていることがあります。それは、マスクによって相手の感情が読み取りにくくなっているということです。実際、米国人やヨーロッパ人は口元で感情を読み取る傾向があることがわかっています。ここから、コロナ禍になり様々な人が感情を読み取るのに苦労しているのではないかと考えました。このような現実がある中で、私はマスクをつけた時に顔の中で唯一出ている「目」に注目しました。目と体を使って、感情を表す方法を身につけていけば、さらに暮らしやすくなると考え、次のゲームを提案します。

「ゲーム説明」

このゲームは「目から感情伝達ゲーム」と言って、目と体だけでお題の感情を表現するゲームです。このゲームはマスクをつけたままどこでもできるゲームとなっています。お題の感情は、怖い、嬉しい、楽しいなどがあります。自分たちで入れたい感情をお題の中に入れることもできます。ここからは一連の流れを説明します。

- 1、一人が感情を表す人となり、それ以外の人は答えを当てる側となります。
- 2、感情を表す人はお題のカードを引きます。
- 3、お題のカードに書かれている感情を目と体だけで表現します。(声は出してはいけません)。制限時間は10秒です。その間に回答者は答えの候補が書かれた紙を見ながら、どの感情を表しているかを考えます。
- 4、制限時間になったら、回答者は答えを一人ずつ言っていき、答え合わせをします。

* 答え合わせをした後に、感情を表した人は、どのようなところを意識して感情を表したのかなどを伝え合ってもいいかもしれません。

このゲームを行うことで、コロナ禍の感情伝達の難しさに対するニーズに応えることができ、マスクをつけた中での感情伝達をスムーズに行う力を楽しく養うことができます。子供からお年寄りまでみんなが楽しく遊ぶことができるこのゲームは、コロナ禍のマスク生活に楽しみをもたらして、人と関わる際の手助けになると考えます。このゲームにより、人々の不安が少しでも減るといいなと思います。